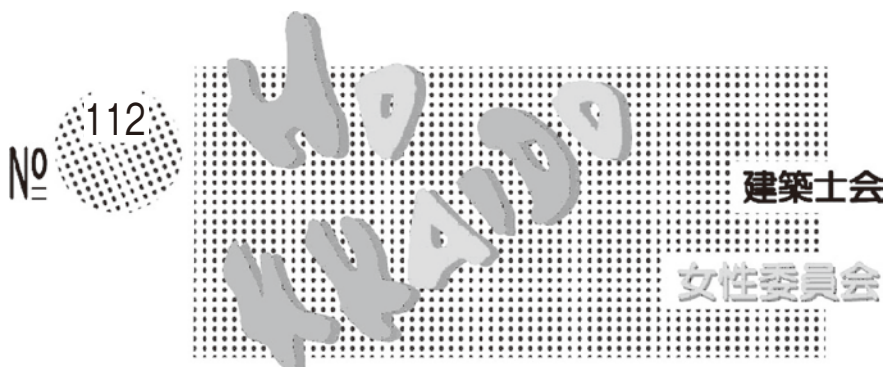




工業高校ワークショップ ～『旭川市の「とき」に映える 新庁舎 part2』～

もうすぐ完成：見学会 施工技術のすご技解説付き

齊藤 裕美（旭川支部）

建設業界や設計分野も含め、若手の担い手不足の問題から建築の楽しさ、素晴らしさを伝えたい、という思いで始めたこの事業も、今年で10回目となりました。昨年に引き続き旭川新庁舎新築工事第2段として、前半は施工に関わった方のお話や映像を視聴し、そのあと質疑タイム、後半は現役建築士と一緒に、1階エントランスホールの土・日・祝日の活用方法を考えるワークショップを3つのグループに分かれて行いました。ゼネコン、市役所、設計事務所とさまざまな職種のスタッフが各々の普段の仕事紹介をし、生徒の進路の参考になったのではないのでしょうか。

各班のアイデアをリーダーに発表してもらいましたが、広場に雪像を作り雪まつり会場として参加、eスポーツやスポーツ観戦などのパブリックビューイングを企画、休日の執務スペースとの間のシャッターを利用した映画鑑賞、大道芸人や屋台を広場に呼ぶ、新しくできた庁舎をゴールに街歩き、買い物公園のクーポンを使えるようにする、など学生らしいアイデアが出ました。



ワークショップの様子



旭川新庁舎

アンケートの回答からは、「普段の授業より実際の現場の映像や写真、働いている人の声を聞けて分かりやすかったし、新しいことを知れた。良い経験になったので次回も参加したい。学校の先生以外の大人の方々とお話しする機会をもっと作っていききたいと思った。今回を通して、改めて建築のすごさ、カッコよさが分かったので、これから勉強を頑張っていこうと思いました。」など嬉しい感想をたくさん頂きました。来年も女性、青年委員垣根無くこの事業を若い世代に引き継いでいってほしいと思います。

「札幌市民防災センター 見学会」

新海 直美（札幌支部）

2023年6月3日、札幌市民防災センターにて体験見学をしました。札幌支部の女性委員会では以前にも見学会を開催したことがありましたが、2023年4月のリニューアルオープンを機に、再度訪れることになりました。

この施設には、災害バーチャル体験、地震体験、救急体験、消火体験、煙避難体験、暴風体験と6つの体験コーナーが設けられており、それらを体験することが参加の大きな目的でした。全てを体験することができましたが、中でも地震体験が一番印象に残りました。

東日本大震災や北海道南西沖地震など、これまでに起きた地震を含めたいくつかの設定があり、1つを選択して体験することができるようになっています。その中には札幌直下型震度7を想定した揺れという設定もあったので、それを体験してみました。これまで私が体験した遠方で起きたゆらゆらとした揺れとは異なり、突き上げるような激しい長い揺れで、札幌でもこのような揺れが起こり得ると思うと身の引き締まる思いがしました。

また、消火体験では消火器の使い方を、救急体験ではAEDの使い方を学ぶことができ、これらは定期的に体験し、慣れておく必要があると改めて認識しました。

今年は年明け早々に能登半島で地震が起きました。被害は甚大で、救援の手が届くまでにとっても時間がかかっていました。災害の規模が大きいほど、自分の身は自分で守らなければならないということを強く感じています。札幌にお住まいの方はもちろん、防災学習施設がお近くにある方は体験してみたいかと、どう動くか良いかのヒントが得られると思います。多くの方に体験していただきたいです。



はしご車の前で



消火体験